

総 括

【DS—6 地盤環境・防災における地域資源の活用—副産物・廃棄物の新たな利用技術—】(発表：2名，報告：4名)

本セッションは、九州支部で活動している研究委員会の中間報告および今後の活動について討議するために開催された。一般発表および研究委員会報告の後、直前のセッション(リサイクル材料：7件)の研究内容と合わせて討議を行った。今後の課題として、1)建設発生土の有効利用促進を阻害する諸問題、2)産業副産物・廃棄物の有効利用が進まない理由、3)災害廃棄物による土壌や地下水の環境汚染の問題が提起された。これらに対し、1)有効利用におけるコストの問題の重要性、2)有効利用技術の現状や成功例、3)学会の役割等について質疑があった。これらの意見を参考にして上記課題について精査し、最終報告をまとめる予定である。

(文責：九州工業大学 永瀬英生)

【DS—7 マイクロジオメカニクスから学際領域への展開】(発表：10編)

本セッションは、国際地盤工学会 TC35 国内委員会で企画した。今年度は、既存の地盤工学のみならず、他の学際領域への架け橋となるようなテーマについての研究発表を公募した。その結果、月面砂の形状、粒状体のファイバーによる補強、タイヤチップの利用、粒子破碎の評価、基礎の支持、平板載荷、鉄道バラスト軌道、杭の周面摩擦、河川のヘドロと間隙水の関係など幅広い分野への適用事例についての発表が行われた。10件中8件は、DEMによるものであった。参加者は50名程度で、限られた時間ではあったが活発な討論が行われた。

(文責：山口大学 兵動正幸)

【DS—8 第1回国際会議から見た交通地盤工学の研究動向と課題について】(発表：12編)

舗装を主な対象とする第1回交通地盤工学国際会議の概要報告の後、表層、路盤、路床・路体という切り口で、最近開催された他の三つの国際会議の発表論文の内容も踏まえた最新の研究動向と興味深い論文の内容紹介がなされた。次に、舗装の動的挙動や変形、アスファルト混合物や粒状材料(バラスト含む)、リサイクル材料の力学特性等に関する一般発表がなされ、試験や調査の方法や解釈について熱のこもった活発な質疑応答がなされた。載荷条件(応力経路、周期、速度など)では妥協できる・できない点を case by case で見極める必要がある。

(文責：神戸大学 吉田信之)

【DS—9 地盤工学におけるリスクマネジメント】(一般発表：7編，活動報告：1編，話題提供：2編)

本セッションは、関東支部の研究委員会(日下部治委員長)の活動報告、一般公募の論文発表、2名の話題提供、全体を通じてのディスカッションで構成されている。冒頭、「本テーマは地盤工学の範囲に、保険・契約・法律を加えた広範な『社会的プロセス』である」との日下部委員長のメッセージが紹介された。続いての報告・発表・話題提供も、この内容を示すものであった。フロアを交えた活発なディスカッションからも、本テーマの重要性と今日性を再確認するものであった。

(文責：東亜建設工業㈱ 岸田隆夫)